

「柏崎の橋」 54 安田駅跨線橋（安田）

安田駅跨線橋は安田駅構内の跨線歩道橋である。安田と駅との関わりは明治時代に遡る。安田の人々は北越鉄道（信越本線の前身）開業前から駅の誘致活動を盛んに行っており、柏崎～塚山間の駅が北条に設置されそうになると「安田は柏崎～岡野町間の交通の要所なので、駅は北条ではなく安田に設置してほしい」と陳情したほどであった。この時は最終的に北条に駅が作られたが、そのすぐ後に、柏崎～北条間にも駅が設置されることになり、明治32年に安田駅が開業した。ただしこれは、柏崎駅と北条駅の間である上田尻が当初の駅設置予定地だったものが「田んぼが潰されては困る」と反対されたため、駅の誘致に積極的だった安田に変更された、という事情もあった。

当時の駅の立地は、「安田沖の深田を埋め立てして、ただ一つささやかな停車場を不便なところにぽつんと建てた」（『田尻村のはなし』）と伝わる。また、海に浮かぶ小島のようなところに駅ができた、とも言われた。しかし、安田の人々の尽力で次第に田が埋め立てられ、街づくりが行われると、駅前には運送業者・料理屋などが建ち並ぶようになった。明治45年発行の『上野新潟全駅各駅旅の友』には、安田駅の説明として「春、夏、秋の各節には、人馬の往来 ^お織るが如く、市中又 ^{またすこぶ}頗る賑へり」とみえる。また、駅前の旅館では豆焼鉾泉に入浴もできたため、これを宣伝したところ多くの利用客が集まった。鯖石郷の学校の児童たちも、汽車を見物するため、先生に引率されて駅を訪れたという。

以前は、安田駅の上り・下り線ホームを行き来するには、一度線路に降りて渡る必要があった。特に、昭和30年代後半に新潟短期大学が安田へ移転し利用客が増加すると、ラッシュ時には停車している貨物列車の間をすり抜けて線路を横断す



安田駅跨線橋

る人が出るなど、大変危険な状態であった。そのため、大学や地元の人々が跨線橋の設置を国鉄に働きかけたところ新設されることになり、橋は昭和41年4月に竣工した。渡り初め式には、柏崎市や高柳町の代表者など50名が参列した。

こうして設置された跨線橋は、全くの新築ではなかった。橋脚など基本的な部分は、別の場所に設置されていたものが移築された。移築された部分は、明治時代に鉄道院が定めた規格により作られたものだが、橋の元の設置場所などは不明である。ちなみに、昭和44年に同様に跨線橋が設置された鯨波駅では、橋脚に「鉄道新橋 明四十三」とあり、東京・新橋の工場で製造されたことがわかるが、安田駅ではそうした文字は確認できない。

鉄道院の規格による跨線橋は、県内で現存するのはわずか数か所である。安田駅跨線橋は、設置から50年近く経過した現在も現役であるが、日本の近代化を支えた貴重な鉄道遺産でもある。

●参考にした本

- 『越後の停車場』（680 アサ）朝日新聞新潟支局 編
- 『新潟県の近代化遺産』（500 N キヨ）新潟県教育委員会 編
- 『田尻漫歩今むかし』（224 タシ）柏崎市田尻公民館 編
- 『新潟県鉄道全駅 増補改訂版』（680 テツ）
鉄道友の会新潟支部 監修

『上野新潟全駅各駅旅の友』は国立国会図書館Webサイト内の近代デジタルライブラリーで読むことができます。
アドレス <http://kindai.ndl.go.jp>